



平成30年6月8日

当たり前の大切さ

朝、校舎を回ります。スキルタイム（朝学習）に取り組んでいました。黙々と漢字を書いている2年生の男の子のことを見ていたときです。隣の席の女の子が、今日の課題を書き上げて私に言いました。「〇〇さんががんばっている」と、私が見ていた男の子のことをほめるのです。今は漢字練習の時間。静かに漢字を書くのは当たり前のことなのですが、その行為をほめたのです。それも、先に終わった自分を自慢するわけでもなく。

私は、「何かよいことはないかな。すばらしい出来事はないかな」と、よさを見つけようとしていました。そこでこの女の子の言葉を聞き、気付かされました。「当たり前のことを当たり前にする」この大切さを忘れていた。

それからは、違った目で教室を回ります。目立つ行為に目を向けるのではなく、当たり前のことをしている姿に目がいきます。つまり、全ての子供、全ての行為に目がいきます。静かに座っている姿。考え込んでいる姿。話に耳を傾けている姿。思いを語っている姿。全ての姿によさを感じられます。今日、元気に登校したことそのことが既にすばらしい行為です。特別なことに出会わなくとも、とても幸せな気分になります。

ここ数日、来校者が多い日が続きました。おいでになった方の何人もが口を揃えておっしゃいます。「きれいな学校ですね」今朝の2年生の女の子の言葉がなかったら、さほど気に留めなかった言葉かもしれません。今日は、この言葉の背景にあるよさを伝えられます。「校舎は新しいわけではありません。特別なメンテナンスを行っているわけでもありません。毎日の清掃を当たり前に行っているだけです」私の言葉にお客様はおっしゃいます。「今も一生懸命掃除をしていました。細かいごみも丁寧に集めていました」「当たり前のことを当たり前にできる。すばらしいことです」

基本的な生活習慣の大切さを感じます。学校での、そして家庭での生活習慣が整っていることが、「当たり前のことを当たり前にできる」につながっているのでしょうか。当たり前を認め、よりよい成長を支えられればという思いを強くします。



〈バケツの水が真っ黒になるまで〉